

お客さまの信頼に一層応える 健全な経営を実現するために

生保労連の経営の健全性確保に関する取組み

生保産業をめぐる環境が厳しさを増す中で、わたしたちは、お客さまの信頼に一層応える健全な経営を実現するために、経営に対するチェック・提言活動等を通じて、労働組合としてのコーポレート・ガバナンス（企業統治）機能の発揮に努めています。

生保経営をめぐる現状

厳しさを増す生保経営

生保経営をめぐる現状は、依然として新契約高・保有契約高の減少が続いている状況にあります。加えて、金融危機による資産運用環境の悪化を受け、生保各社の財務状況が悪化する中で、財務面での健全性が改めて経営上の重要な課題となっています。

こうした中、お客さまから信頼を得るとともに、その信頼に応えていくためには、業務運営面から財務面に至るまで、経営全般の健全性確保・向上に向けた取組みがますます重要となっています。

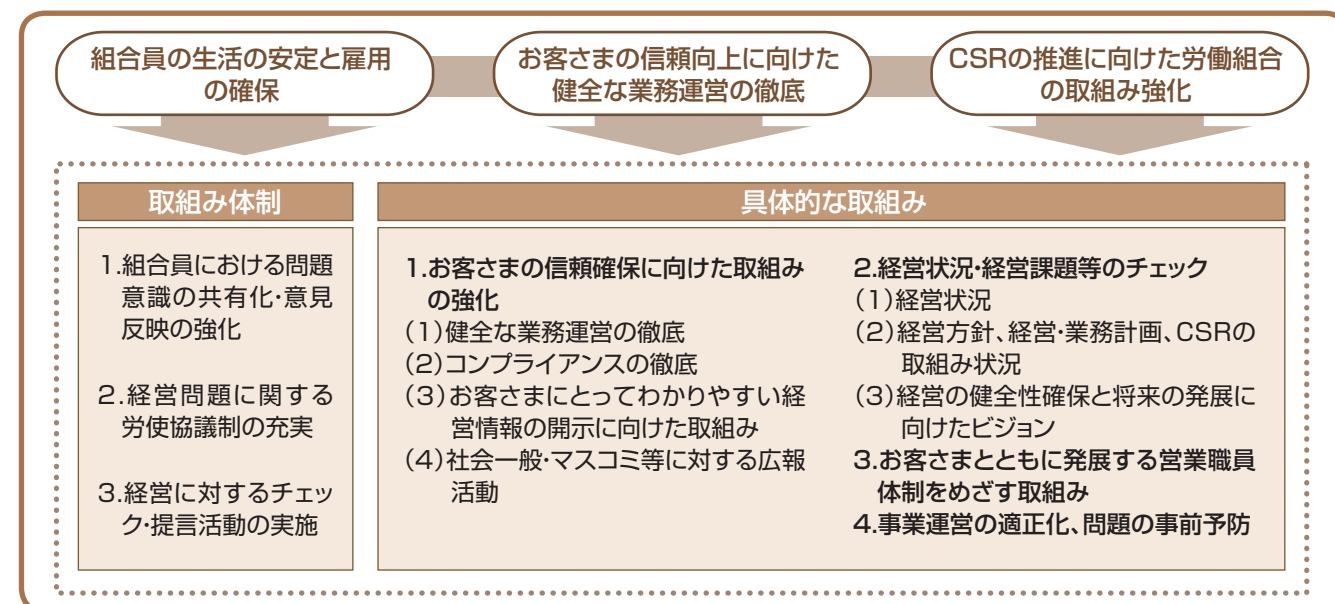
わたしたちの基本的な考え方

コーポレート・ガバナンス機能の一層の発揮に向けて

健全な企業経営・業務運営が求められる中で、コーポレート・ガバナンス機能の強化が重要となっています。コーポレート・ガバナンスはすべてのステークホルダー（利害関係者）による実践が基本となりますが、とりわけ現場の事情に精通した従業員（労働組合）の役割・機能発揮が重要と考えます。

わたしたちは、経営の健全性確保に向けてコーポレート・ガバナンス機能を一層発揮していくために、組合員における問題意識の共有化・意見反映の強化、経営問題に関する労使協議制の充実、経営に対するチェック・提言活動の推進等、取組み体制の充実をはかりつつ、お客さまの信頼向上に向けた取組みを行っています。

◆生保労連の「経営の健全性確保の取組み」の全体イメージ

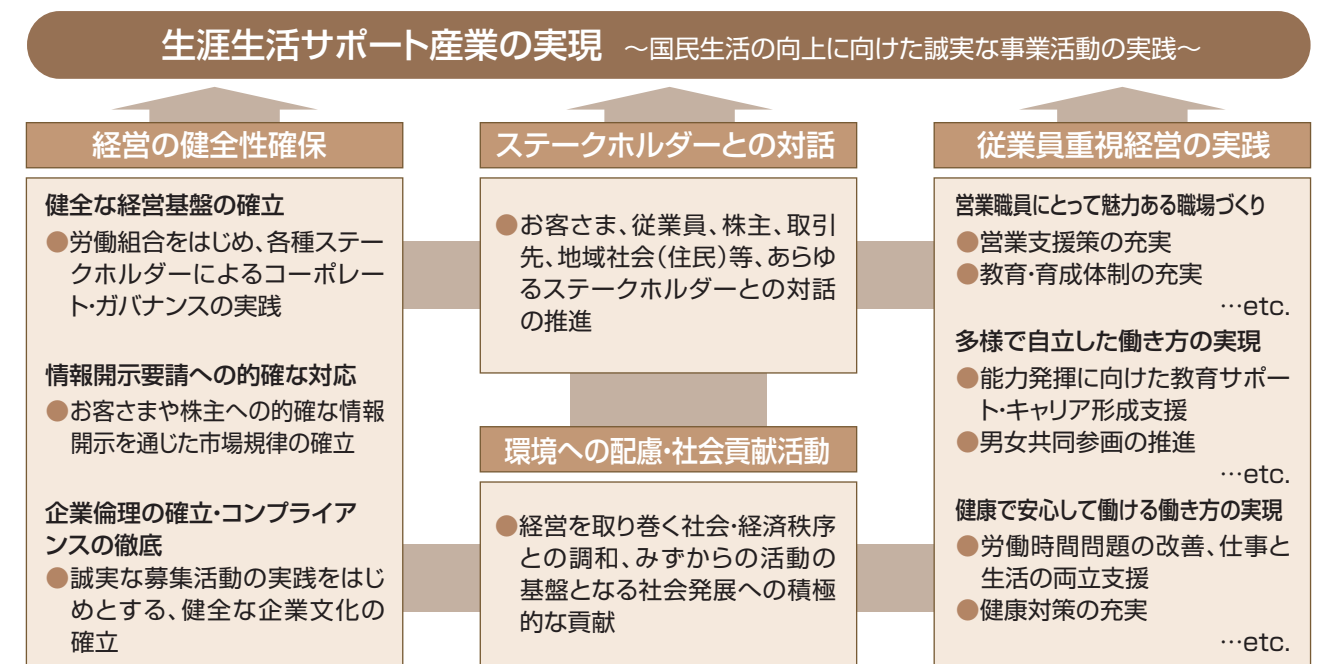


経営の健全性確保は「生保産業におけるCSR」を支える重要な柱

CSR（企業の社会的責任）の実践が、お客さまや社会が企業を評価・判断する際の重要な要素となる中で、経営の健全性を確保することは事業発展の礎であり、CSRの重要な柱といえます。

わたしたちは、「経営の健全性確保の取組み」を「生保産業におけるCSR」を支える重要な柱と位置づけ、CSR推進の観点からも本取組みを積極的に推進しています。

◆「生保産業におけるCSR」のイメージ



わたしたちの取組み

お客さまの信頼向上に向けて 労働組合としての取組みを強化しています

経営の健全性を確保していく上で、お客さまからの信頼を高めていくことが重要となる中で、わたしたちは、健全な業務運営の徹底、コンプライアンスの徹底、適切でわかりやすい情報開示のあり方等について、積極的な労使協議を行っています。

特に、コンプライアンスについては、健全な業務運営の基本であり、経営にその徹底を求めるとともに、労働組合自らも、現場で働く従業員の立場から、コンプライアンスの実効性確保に向けた一層の役割発揮に努めています。

労働組合の立場から 経営に対するチェック・提言活動に努めています

わたしたちは、経営情報の開示を求める中で、経営状況、決算見通し等について定期的にチェック・フォローを行い、会社の経営・業務運営全般にわたり積極的な労使協議を行っています。また、会社や従業員の将来に大

きな影響を及ぼす経営方針、経営・業務計画、将来ビジョン等についても、課題認識の共有化をはかるとともに、労働組合の立場から積極的な意見反映を行っています。

事業運営の適正化、問題の事前予防に努めています

経営の健全性確保に向けては、よりお客さまの視点に立った事業運営が求められています。

わたしたちは、事業運営の適正化に向けて、お客さまに近い現場の視点から、経営に積極的な意見発信を行う

とともに、自らも適正な事業運営の徹底に努めています。

あわせて、「安心して働ける環境整備」「労働時間問題の取組み」等を通じ、従業員の職場環境や労働実態に問題が生じないよう取組みを進めています。